

ハシディーム派ユダヤ教における「メシアは神」 2011年4月10日 リバイブ・イスラエル・ミニストリーズ

タル・ロビン

先週、イスラエルで最も発行部数の多い新聞(マアリヴ誌とイエディオット誌)に広告が掲載されました。それは、ニューヨーク、ブルックリン地区でのハバッド・ルバビッチ運動における「メシヒスト(訳注:メシア主義)」という分派のメイル・バーンズ氏によって掲載されたものでした。彼らのチーフ・ラビであったメナヘム・シェニアソン師は1994年に亡くなりました。彼の死後その運動は二手に分かれ、より穏健なグループは、シェニアソン師はおそらくメシアであり、彼の教えは世界に影響を及ぼすであろうと信じており、より過激なグループ(メシヒスト、または「メシニック」)は、彼は確かにメシアであり、彼は死から霊的に甦ったと信じています。

この新しい広告には衝撃的な宣言が含まれています。それは、ラビ・シェニアソンは神であると、彼は「聖なる方、王の中の王、祝福されたお方の霊的実体、永遠の光」であると。この広告にはまた「神はご自身をメシアの体をまとしておられる」とも述べています。それはユダヤ教の神秘書簡を引用しており、すなわちモーセは「半神半人」であったが、ラビ・シェニアソンは「完全に神」であったと。広告にはシェニアソン師の写真とイザヤ 25:9「見よ。この方こそ、私たちが救いを待ち望んだ私たちの神。」が載せられていました。

これらの広告に続いて、ハバッド派のラビ・メナヘム・ブロッグがそれに反する宣伝を出し、メイル・バーンズは不適格者とし、精神病者であると述べました。

メシアは神であるという概念は、ブレスラヴ(注:現在のチェコ共和国の街)のラビ・ナフマン(1772年~1810年)の信奉者によるブレスラヴ・ハシディーム派運動の中にも同様に存在します。彼らはラビ・ナフマンを「創造の前から神と一つであったメシアであり、完全なお方であり、玉座に座すにふさわしいお方であり、真理による高貴なお方である」と述べています。ラビ・ナフマンが世界を作られたのだと、彼は「祝福されたお方そのもの」と同じ位置にある方であると述べています。

幾人かのブレスラヴ派の信奉者はラビ・ナフマンに関する引用に際し、単純な方法で理解することはできないと手早く説明します。彼らは、ラビ・ナフマンが自分自身に関してこれらのことを言ったことを否定しませんが、その解釈に関しては一致を見ていません。

これらの宣伝の結果は、ハバッド派のメシヒスト分派とラビ・ブレスラヴの信奉者との間に争いがあることを示しています。それぞれが相手の分派のラビを不適格としようとしています。これらの争いは、ユダヤ教の思想の発展に歴史的な突破口を代表するものであります。すなわち、メシアは実在し、神的な素質があり、そして彼は神ご自身であるとも考えられるということです。

何年にも渡って福音を分かち合う上で私たちが面してきた最も難しい点は、メシアの神性を受け入れることを人々が拒絶することにあります。この神的メシアという、まさしくこの概念は「非ユダヤ的」であると見られてきました。この終わりの日々において、超正統派ユダヤ人が熱心にメシアの来訪を求めており、ある者はメシアに関する古代の聖書的な真理を明らかにしています。彼らが、偽りの「死んだ」メシアへの信仰から解放され、死者から復活され、ダビデの御子であり、神の御子である、真の「生きておられる」メシアであるイエシュアを信仰するよう、祈りましょう。

もしハシディーム派のユダヤ人が彼らの偽りのメシアを神と主張することができるならば、イエシュアは神（ヨハネ 1:1、14、ヨハネ 14:9、ヨハネ 20:28、ローマ 9:5、ピリピ 2:6、コロサイ 1:15-17、コロサイ 2:9、1テモテ 3:16、ヘブル 1:3、9、1ヨハネ 5:20、黙示録 1:8）であると私たちが主張するの、躊躇する理由は何もありません。

メシアの神性に関する事柄については、ユダヤ教界や現代のイスラエルのメディアの中においても、毎日のように繰り返し取り上げられています。この現象はまた別の聖書的な真理を指し示しています。すなわち、終わりの時に大勢の偽メシアや偽預言者が現れるということです（**マタイ 24:24-26**）。

日本と終わりの時

アリエル・ブルーメンソール

私は、福島第一原子力発電所の避難指示区域のすぐ外にあるいわき市にあるグローバル・ミッション・センターにおいて 12 日間活動した中で経験したことについて分かち合いたと思います。1ヶ月前までは、皆さんのほとんどは福島という名を聞いたことがないでしょうが、今は、一世代前の「チェルノブイリ」と同じぐらい知られるようになりました。

主は、日本において長きにわたって待たれていたりバイバルのために、このいわき市を選ばれたのだと私は信じています。詳細につきましては、[Pray for Japan](#) (英語のブログ)をお読み下さい。

ビビとビーバー

ベディ・イントレーター

今週、イスラエルは、テル・アビブで 10 代の若者の憧れの的であるジャスティン・ビーバーのコンサートを開催することによって、「すべての国々のように」になりました。ビーバーはクリスチャンであると表明し、彼はコンサートの前には祈り、聖地を観光するために数日前に来訪します。彼はまた「ビビ（訳注：ネタニヤフ氏の愛称）」ネタニヤフ首相との個人的な会合をも予定しています。

また、彼のユダヤ人マネージャーを通して、ビーバーはコンサートの前にヘブライ語の「シエマー・イスラエル」の祈りの詠唱の仕方を学んだと述べています。

鉄のドームーパレスチナからのロケット脅威の終焉か

マティ・シヨシャニ

先週末、「鉄のドーム」システムが成功裏に配備されました。この対ロケットミサイル配備はガザからのイスラエルの街々に対するロケット攻撃に対応するために、イスラエル防衛会社によって迅速に開発されたものです。

このシステムは、ロケットが発射されたことを認識し、その弾道を計算し、必要ならば飛んでいる間にそれを迎撃します。

このシステムはベエル・シェヴァやアシュケロンの周辺に配備され、人口密集地に向かって飛んできた8弾のロケットを迎撃しました。

「鉄のドーム」は、街々の中に住む市民を殺害するロケットの脅威を減らすことによって、イスラエル人市民の士気の低下を防ぐ効果があり、イスラエル南部でのイスラエル人ーパレスチナ人紛争における恐怖の均衡を変えました。

「鉄のドーム」は均衡を破る技術で、イスラエル側の決断を行う人々に、この爆発的な中東の現実において正しい判断を下す必要な時間を与えました。

シリア人の内乱

週末に起こった保安部隊と抗議者との間での衝突の結果、37人のシリア市民が亡くなったとその後報道されました。

金曜日の祈りが終わった時に始まり、ここ数ヶ月の間アサド大統領が対処してきたデモ活動の波の一部として、抗議者はシリアの路上に出て活動しました。

抗議者が民主主義と平等への要求を撤回することを拒絶したため、アサドはデモ隊に対する暴力のレベルを引き上げました。両陣営が譲歩する意志はないために、さらなる流血になることが避けられなくなっています。